

# 。 U.S. Indicators

米国 前月の高い伸びから鈍化も堅調さ維持(18年4月小売売上高)

公表日：2018年5月15日(火)

～コア小売の拡大モメンタムは下げ止まり再拡大へ～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

	小売・飲食サービス売上高		耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)			
		除く車	自動車	家具	家電	衣料品	ガソリン			
17/04	+0.5	(+4.6)	+0.4	+0.6	+0.9	▲0.6	+1.0	+0.6	▲0.1	▲0.1
17/05	▲0.1	(+4.2)	▲0.3	+0.2	+0.6	+1.0	▲0.3	▲0.4	▲0.0	▲3.2
17/06	▲0.1	(+3.0)	▲0.2	+0.4	+0.4	+0.5	▲1.2	▲0.4	+0.7	▲1.4
17/07	+0.5	(+3.7)	+0.5	+0.4	+0.3	▲0.5	▲1.6	+0.6	+0.3	▲0.5
17/08	▲0.1	(+3.5)	+0.5	▲1.2	▲2.0	+0.5	+0.7	+0.5	▲0.4	+3.4
17/09	+2.0	(+5.0)	+1.3	+4.0	+4.8	+0.9	+1.4	+1.4	+0.5	+6.0
17/10	+0.7	(+5.0)	+0.5	+1.1	+1.4	+2.0	+1.4	+0.5	+0.9	+0.2
17/11	+0.8	(+5.9)	+1.2	▲0.6	▲1.0	+0.5	+1.2	+1.6	+0.6	+3.4
17/12	▲0.1	(+5.1)	▲0.0	▲0.1	▲0.2	▲1.2	▲1.7	▲0.2	▲1.1	+0.1
18/01	▲0.2	(+3.8)	+0.1	▲1.0	▲0.9	▲0.3	+0.9	+0.3	+1.0	+2.0
18/02	+0.0	(+4.2)	+0.4	▲0.4	▲1.2	+0.4	+0.3	+0.2	+0.5	+0.5
18/03	+0.8	(+4.9)	+0.4	+1.3	+2.1	+1.4	+0.7	+0.4	▲0.2	+0.3
18/04	+0.3	(+4.7)	+0.3	+0.2	+0.1	+0.8	▲0.1	+0.5	+1.4	+0.8

(注) 数字は季調済前月比。但し、( )内は前年同月比(未季調)。

\*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上合計。

\*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

## 4月の小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.3%と鈍化

18年4月の小売・飲食サービス売上高(速報値、季節調整値)は、前月比+0.3%(前月同+0.8%)と鈍化し、市場予想中央値の同+0.3%と一致したが、2、3月合計で0.3%p上方改定されており、市場予想よりも強い内容。

価格上昇や需要の拡大によってガソリンの売上が増加したものの、前月に復旧・復興需要による変動で高い伸びとなった耐久財が鈍化し、全体の伸びを抑えた。家計を取り巻く環境をみると、雇用・所得の拡大、資産の増加、マインドの良好な状況が続いており、小売売上高は堅調さを維持していると判断される。

業態別では、家電、薬局、飲食店が減少に転じたほか、スポーツ用品・本・趣味用品が減少を続けた。また、自動車・同部品、百貨店など一般小売が鈍化した。一方、建設資材、衣料品、その他小売が増加に転じたうえ、食品・飲料、ガソリンスタンドが加速した。さらに、家具、通信販売は鈍化も高い伸びを維持した。

## 4月の小売・飲食サービス売上高では、ガソリンスタンド、衣料品、通信販売が主要な押し上げ要因

4月の小売売上高の前月比(+0.30%)の寄与度をみると、マイナス寄与の業態は、飲食店が▲0.04%、薬局が▲0.02%となった。一方、プラス寄与の業態では、ガソリンスタンドが+0.07%、衣料品が+0.07%、通信販売が+0.07%と大幅な押し上げ寄与となった。次いで、食品・飲料が+0.04%、建設資材が+0.03%、百貨店を含む一般小売が+0.03%、自動車・同部品が+0.02%、家具が+0.02%、その他小売りが+0.02%と続いた。家電、スポーツ用品・本・趣味用品は0.00%。

## 4月の自動車を除く小売売上高は前月比+0.3%に鈍化

変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.3%(前月同+0.4%)と鈍化し、市場予想中央値の同+0.5%を下回ったが、2、3月合計で0.4%p上方改定されたことを考慮すると、市場予想よりも強い内容といえよう。家電、薬局、

飲食店が減少に転じたほか、スポーツ用品・本・趣味用品が減少を続けた。また、百貨店など一般小売が鈍化した。一方、建設資材、衣料品、その他小売が増加に転じたうえ、食品・飲料、ガソリンスタンドが加速した。さらに、家具、通信販売は鈍化したが高い伸びを維持した。

**4月のコア小売売上高は前月比で+0.3%と鈍化も、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では+2.4%に上昇**

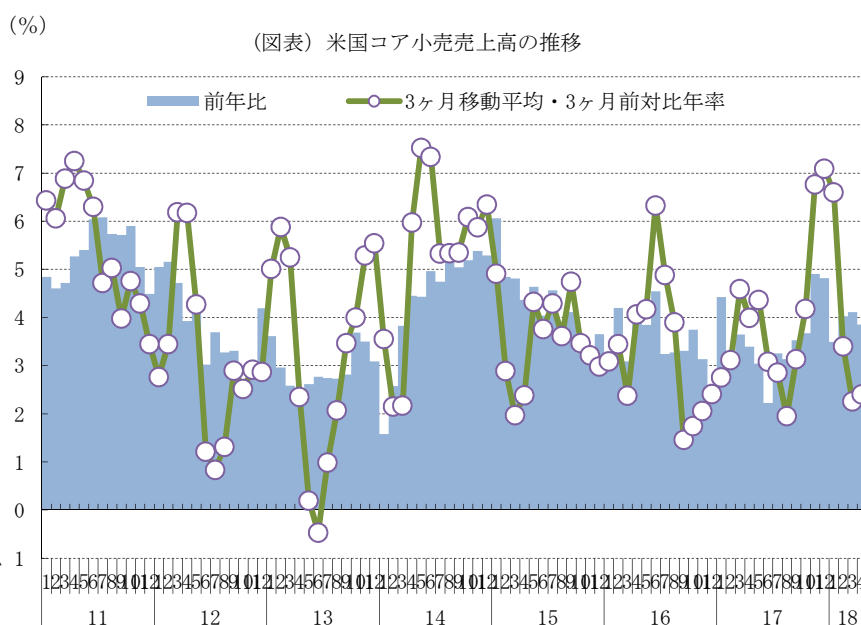
小売売上高の基調を判断するうえで重要なコア小売売上高（自動車・ガソリン・建材を除く小売・飲食サービス売上高）は、前月比+0.3%（前月同+0.6%）と鈍化した（2、3月合計で0.3%p上方改定）。家電、薬局、飲食店が減少に転じたほか、スポーツ用品・本・趣味用品が減少を続け、百貨店など一般小売が鈍化した。一方、衣料品、その他小売が増加に転じたうえ、食品・飲料が加速し、家具、通信販売は高い伸びを維持した。

コア小売は、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で+2.4%（前月+2.3%）と再上昇した。復旧・復興需要などによって押し上げられた反動や税還付の遅れ等により、小売の基調を示すコア小売売上高の拡大モメンタムは弱まっていたが、下げ止まりが確認された。全米での雇用・所得の増加傾向、株や不動産等の資産残高の増加、消費者マインドの安定など、消費を取り巻く環境は良好な状態を維持しており、拡大モメンタムは一段と強まると予想される。

**4月のコア小売は年率+2.9%と1-3月期の前期比年率+2.3%から加速**

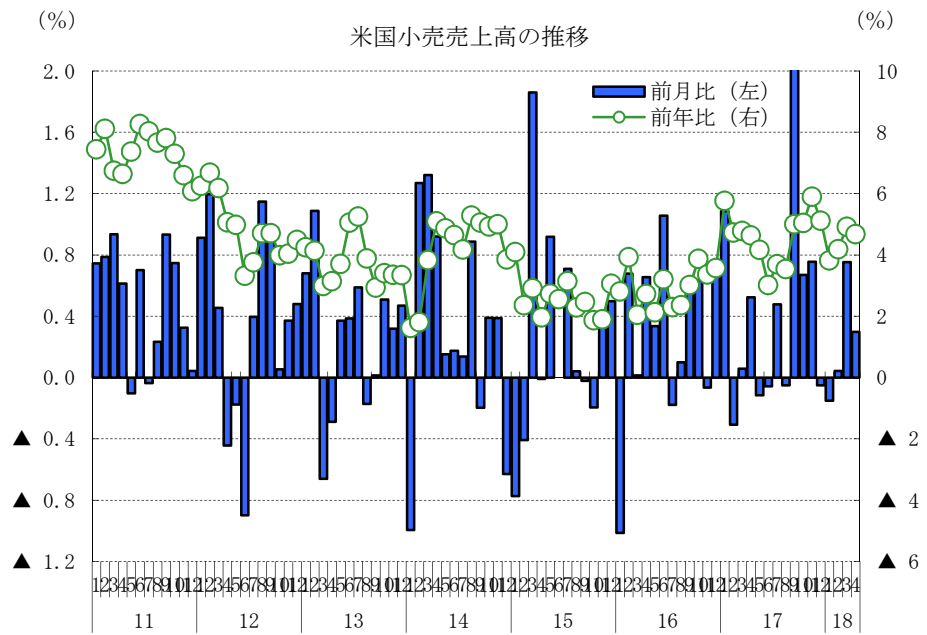
四半期でみると、4月のコア小売売上高（平均）は1-3月期比年率+2.9%と、1-3月期の前期比年率+2.3%（速報同+1.6%から上方改定）から加速している。10-12月期に復興・復旧需要によって前期比年率+7.1%と高い伸びになった反動で1-3月期に大幅に鈍化した、持ち直しを示された。

今後5、6月のコア小売は、減税効果、良好な雇用環境等を背景に、伸び率を速めると見込まれる。結果、4-6月期の実質個人消費は前期比年率+3%程度（1-3月期は同+1.1%から同+1.3%に上方改定される見込み）に加速すると予想される。



(出所) 米商務省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。